

5-3 災害対策・BCP検討WG

1. 主な活動の記録

(1) 災害対応 WG 並びに災害対策・BCP 検討 WG の開催

- a) 委員会開催回数：令和 5 年 7 月 5 日（1 回）
- b) 演習：令和 5 年 9 月 1 日

(2) 災害時対応演習の実施

令和 5 年度の災害時対応演習は、北海道支部管内で大規模地震が発生したことを想定し、災害対策本部、災害対策北海道現地本部及び北海道支部以外の各支部の災害対策支部の設置に基づく連絡・伝達網の確認を行った。

なお、令和 5 年度は、前年度と同様に、本部と各支部とを Web 会議システムにて接続し、演習を行うことができた。

(3) 演習の主要目的

演習の主眼は、以下に示す連絡・伝達網及びその機能のチェックとした。

- a) 災害対策本部、災害対策現地本部ならびに災害対策支部との連絡・伝達網が正常に機能できるか否かを検討する。
- b) 支部と会員各社との連絡網が正常に機能できるか否かを検討する。
- c) 会員会社はできるだけ同時に各社ごと演習を行い、その成果を検証する。
- d) 本部、現地本部、リエゾン、9 支部において Web 会議システムを用いた連絡確認を実施する。

(4) 災害時対応演習実施状況

平成 11 年度より継続実施している防災演習の想定災害発生地域の最近の実施地域は表 1 のとおりであり、次年度は中国支部が対象となる。

令和 5 年度の災害時対応演習の特徴としては、災害対策本部、災害対策現地本部、リエゾン、9 災害対策支部を Web 会議システムにて同時接続し、できるだけ臨場感をもってリアルタイムに情報連絡を行うとともに、主要な事項についてメール送信・受信を行った。令和 4 年度と比べて情報伝達がスムーズに行われた。

表 1 災害時対応演習における想定災害発生支部

年 度	想定災害発生支部
令和 3 年	中部支部
令和 4 年	九州支部
令和 5 年	北海道支部
令和 6 年	中国支部

(5) 災害時対応演習の課題

演習後の各支部からの実施報告から以下のような課題や改善点が明らかになった。

- a) 臨場感をもって演習にあたるために、被災写真を表示しながら情報伝達を行うと効果的である。
- b) 実際の災害時において現地対応で重要なのは、現地に入るまでの交通手段の確保、宿泊先の調達であり、災害対策現地本部ではその支援活動も念頭に入れる必要がある。メールのやり取りを前提とした訓練を行う必要がある。
- c) 今後、国土交通省緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）との連携についても訓練の視野に入れておく必要がある。
- d) 建設コンサルタント協会が作成している「災害時行動計画（災害時連絡フロー図）」を日頃から携行しておく必要がある。訓練実施の際も、フロー図と合わせて訓練を進めていくと良い。
- e) 常に情報が動くという前提で、メールが送信できない等のトラブルに備え、クラウドの活用等も検討する必要がある。

(6) 災害対策本部及び災害対応 WG 設置

令和 6 年能登半島地震に対して、令和 6 年 1 月 11 日 10 時に災害対策本部及び災害対応 WG を設置し、情報収集と災害対応支援の準備を進めた。

2. 次年度の活動について

- (1) 令和 6 年能登半島地震に対する災害対応の継続（情報共有、他支部の支援調整等）
- (2) 令和 6 年度災害時対応演習実施
（災害対策・BCP 検討WG WG 長 天野 光歩）